

令和4年10月14日14時00分
近畿地方整備局
(同時発表:阪神国際港湾(株)、大阪港湾局)

CONPAS の利用によって輸入コンテナ（搬出・実入り）を対象とした トレーラー1台あたりのゲート受付時の処理時間60秒削減を確認 ～大阪港 DICT 第2回 CONPAS 試験運用の結果～

CONPAS は、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ることでコンテナ物流の効率化及び生産性向上を実現することを目的として、国土交通省が開発しました。

今般、大阪港 DICT において、令和4年1月の第1回 CONPAS 試験運用に引き続き、令和4年8月～9月に第2回試験運用を実施しました。今回は、輸入コンテナ(搬出・実入り)を対象に、第1回試験運用より参加店社の規模を拡大し、阪神港において初めての試みである60分枠を基本とした来場時間の予約制のもと、待機場を活用した試験運用を実施しました。

試験運用の結果、当該運用が支障なく機能することを確認しました。また、CONPAS に期待される効果の一つであるゲート処理時間の削減効果について検証したところ、CONPAS を利用しないトレーラー(通常車両)と比較し、CONPAS を利用したトレーラー(CONPAS 車両)は、トレーラー1台あたりのゲート受付時の処理時間が60秒削減されたことを確認しました。(通常車両:平均69秒/台、CONPAS 車両:平均9秒/台)

<試験運用の概要>

1. 日時: 令和4年8月22日(月)～令和4年9月2日(金)
2. 実施場所: 大阪港 夢洲コンテナターミナル(DICT)(C10のINゲート～待機場)
3. 実施内容: 営業コンテナ(輸入コンテナの搬出・実入り)を対象としたゲート処理の運用
・効率化の検証、具体的な来場時間の予約制の試行、待機場を活用した運用ルールや動線の確認
4. 実施結果等
別紙のとおり

<取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、神戸海運記者クラブ、
神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ、港湾新聞社、神戸経済記者クラブ、
マリタイムデーリーニュース社、海事プレス、港湾空港タイムス

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 港湾空港部

港湾高度利用調整官 谷本 隆介

クルーズ振興・港湾物流企画室長 佐渡 英樹

Tel : 078-391-3102 (直通) Fax : 078-325-8288

大阪港DICT第2回試験運用(輸入コンテナ(搬出・実入り))の実施概要

- CONPASは、コンテナターミナルのゲート前混雑の解消やコンテナトレーラーのターミナル滞在時間の短縮を図ることでコンテナ物流の効率化及び生産性向上を実現することを目的として、国土交通省が開発。
- 大阪港DICTでは令和4年1月の第1回試験運用に引き続き令和4年8月22日～9月2日に第2回試験運用を実施。今回は、輸入コンテナ(搬出・実入り)を対象に、第1回試験運用より参加店社の規模を拡大し、60分枠を基本とした来場時間の予約制のもと、待機場を活用した試験運用を実施。

※赤字は今回初めて取り組んだ内容

事前予約から搬出までの処理等

【事前予約】

- CONPASを通じてコンテナの搬出日時を予約
(60分枠(基本)、7枠/日、15台/枠)

【搬出可否情報の事前確認】

- コンテナの搬出可否情報を事前に把握して来場
- 関係者は搬出状況や搬出可否情報をリアルタイムに把握可能

【専用携帯端末GPS機能の活用】※1

- トレーラーの位置情報表示
- ゲート前渋滞情報の表示
- ゲートアウトの自動判定

待機場での予約確認

【待機場における専用レーン及び予約確認】

- CONPAS車両は待機場に設けられたCONPAS専用レーンに進入し、係員による予約確認を受ける
- CONPAS車両は待機場出口の誘導員の指示のもと、優先的に待機場を退場する

ゲートにおける処理

【PSカードの活用】

【携帯端末による行先表示】※1

- コンテナ情報、ドライバー情報等を付与したPSカードをカードリーダーにタッチし、ターミナルのコンテナ情報等とCONPAS上で照合
- トレーラーの行先を携帯端末に表示

※1実施内容は阪神港において検証中の機能



大阪港DICT第2回試験運用(輸入コンテナ(搬出・実入り))の実施概要

○目的： 営業コンテナ(輸入コンテナの搬出・実入り)を対象としたゲート処理の運用・効率化の検証
待機場を活用したCONPAS運用ルールや動線の確認

【大阪港DICT 第1回試験運用との比較】

項目	大阪港DICT 第2回試験運用	(参考) 大阪港DICT 第1回試験運用
時期	令和4年8月22日～9月2日 (約2週間)	令和4年1月27日、28日 (2日間)
場所	大阪港 夢洲コンテナターミナル (DICT) (C10のINゲート～待機場)	大阪港 夢洲コンテナターミナル (DICT) (C10のINゲート)
参加店社数	<ul style="list-style-type: none"> 海運貨物取扱業者：11社 海上コンテナ輸送事業者※1：11社 	<ul style="list-style-type: none"> 海運貨物取扱業者：4社 海上コンテナ輸送事業者※1：4社
予約本数	161本 (営業コンテナ)	14本 (営業コンテナ)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 営業コンテナ (輸入コンテナの搬出・実入り) を対象としたゲート処理の運用・効率化の検証 待機場を活用したCONPAS運用ルールや動線の確認 <p>【機能確認事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 搬出予約の事前登録 搬出可否情報の事前確認 PSカードを活用した入場受付 出入管理情報システムとの連携 CONPAS専用携帯端末による行先表示 CONPAS専用携帯端末のGPS機能を活用した、トレーラーの位置情報の表示およびゲート前渋滞情報の表示、ゲートアウトの自動判定 	<ul style="list-style-type: none"> 営業コンテナ (輸入コンテナの搬出・実入り) を対象としたシステムフローについて一連の動作確認 <p>【機能確認事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 搬出予約の事前登録 搬出可否情報の事前確認 PSカードを活用した入場受付 出入管理情報システムとの連携 CONPAS専用携帯端末による行先表示 CONPAS専用携帯端末のGPS機能を活用した、トレーラーの位置情報の表示およびゲート前渋滞情報の表示、ゲートアウトの自動判定
予約枠設定	60分枠(基本)、7枠/日、15台/枠 (8:30～9:30、9:30～10:30、 <u>10:30～11:00</u> 、 13:00～14:00、 14:00～15:00、15:00～16:00、 <u>16:00～16:30</u>) ※ターミナル運営上、下線部の時間は30分枠で設定	朝イチ枠 (8:30～ 9:30) 午前枠 (9:30～11:30) 午後枠 (13:00～16:30)

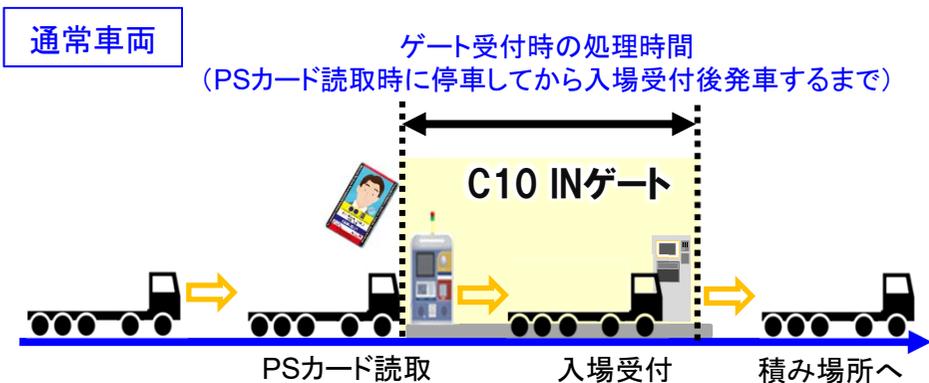
※1 海上コンテナ輸送事業者:コンテナを港から指定された各地へ運搬する事業者

大阪港DICT第2回試験運用(輸入コンテナ(搬出・実入り)) 効果検証の結果(ゲート受付時の処理時間の削減)

- 令和4年8月29日～9月2日の期間中、C10 INゲートにおけるCOMPAS車両のゲート受付時の処理時間を計測した。
- 検証の結果、COMPASを利用しないトレーラー(通常車両)と比較し、COMPASを利用したトレーラー(COMPAS車両)は、トレーラー1台あたりゲート受付時の処理時間が60秒削減されたことを確認した。

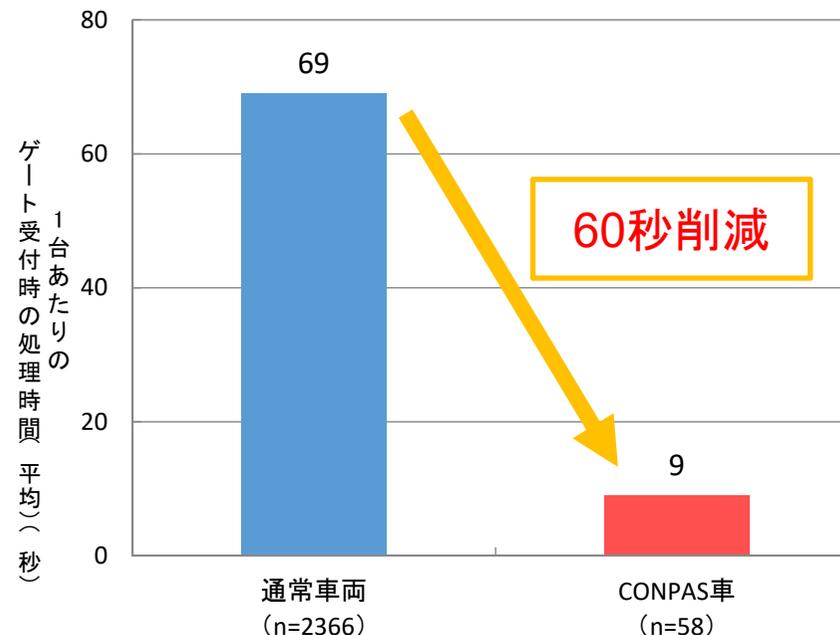
ゲート受付時の処理時間の計測方法

- 令和4年8月29日～9月2日の期間中、C10 INゲートにおけるCOMPAS車両のゲート受付時の処理時間を計測。



ゲート受付時の処理時間の削減効果

ゲート受付時の処理時間(平均)(輸入コンテナ(搬出・実入り))



※通常車両(輸入コンテナ(搬出・実入り))のゲート受付時の処理時間は、大阪港DICT第1回COMPAS試験運用(令和4年1月)での計測値を使用。

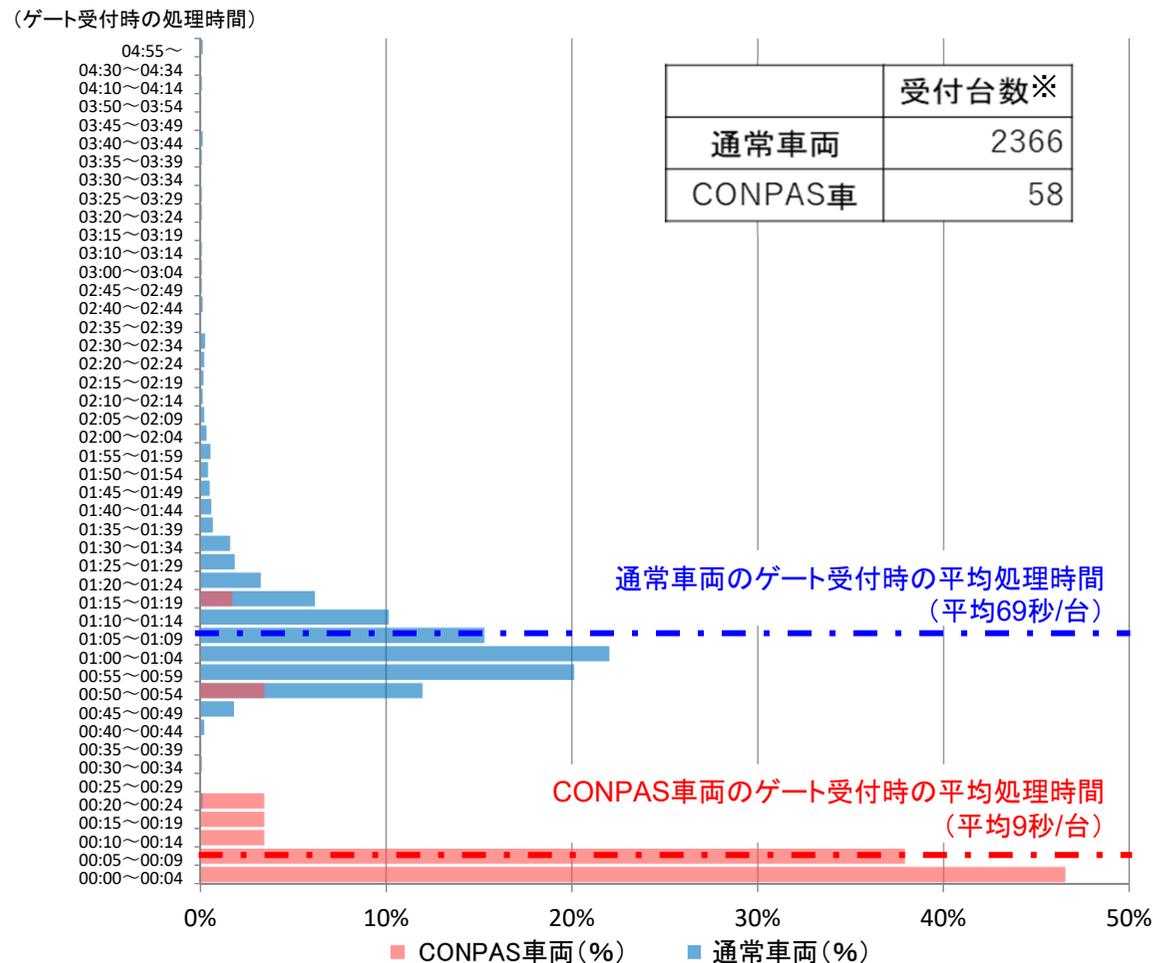
【輸入コンテナ(搬出・実入り)引取りのゲート受付時の処理】

- 通常車両** : 1台目の筐体にてPSカードを読み取らせた後、2台目の筐体で入場受付を行い、積み場所が記載されたプラカード(行先指示書)を受け取る。
- COMPAS車両** : 1台目の筐体にてPSカードを読み取らせると、ドライバーの携帯端末に積み場所が表示される。

大阪港DICT第2回試験運用(輸入コンテナ(搬出・実入り)) 効果検証の結果(ゲート受付時の処理時間の削減)

- CONPAS車両及び通常車両のゲート受付時の処理時間について、受付台数全体に対する処理時間区分ごとの割合については以下のとおり。
- 検証の結果、CONPASを利用することにより、通常車両に比べてCONPAS車両のゲート受付時の処理時間が全体的に削減されたことも確認した。

ゲート受付時の処理時間の割合



※: 受付台数は通常車両は第1回試験運用データ、CONPAS車両は第2回試験運用データを使用

1. 搬出予約制度

- ドライバーへの輸入コンテナの引取りに関するオーダーを画面上で確認できるため、業務無線の使用時に生じていた「配車係の言い間違い」、「ドライバーの聞き間違い」、「電波の状態が悪い時の聞き直し」等のトラブルが無くなり、時間短縮につながった。【海コン※】
- 画面表示が簡略化されており、各コンテナの詳細情報を選択して確認できる仕様となっていたので見やすかった。【海貨※※】
- B/L単位等複数のコンテナを同時に依頼できれば利便性は上がる。【海貨】

2. 貨物情報の事前確認・GPS機能の活用

- 搬出可否情報について検索をしなくてもリアルタイムで携帯端末に表示されるので利便性が向上した。【海コン】
- 貨物情報について電話やメールで社内関係部門に確認する手間を省くことができた。【海貨】
- ゲートアウトの確認は特に重要であり、見える化によりデバンニング先の作業員や荷主に対し到着の目途を伝えることが可能となるため、利便性は向上する。【海貨】
- GPSの精度や更新頻度が高く便利だった。【海コン】

3. 待機場を活用した来場

- 通常車両が待機場内に2~3列程度並んでいる場合においても、ゲート前待機時間の削減には十分効果があった。【海コン】
- 来場時間の目安がつくため、時間を有効的に使うことができる。【海コン】

4. PSカードの活用・携帯端末による行先表示

- ゲート部の筐体にPSカードをかざして2~3秒後にロケーション(コンテナ蔵置場所)が表示されるので、スムーズにゲートを通過できた。【海コン】
- 筐体のタッチパネル入力ミスがなくなる。【海コン】
- コロナ禍において、接触(タッチパネル操作)が無くなり安心である。【海コン】